二〇二〇年二月二一日

園児等の町のお散歩春うらら　満　天
寒暖の日々に思案の旅支度　たか子
暖かや信楽陶たぬき臍出して　菜　々
降りながら朝日に消ゆる春の雪　なつき
梅匂ふ袋小路の土蔵塀　愛　正

二〇二〇年二月二〇日

春風になびく尻尾や返し馬　ぽんこ

二〇二〇年二月一九日

馬場うらら騎手の黄帽子赤帽子　菜　々
河口から見ゆる外海風光る　せいじ
冴返る馬場に混戦ひづめあと　菜　々
百円で春昼遊ぶ競馬場　明日香
旅情いま引きては返す春渚　たか子

二〇二〇年二月一八日

パドックへ騎手の一礼草青む　たか子
うららかや公園のごと競馬場　明日香
泡吹いて気合漲る競争馬　たか子
金閣寺白変したる春の雪　満　天
フリージア葉書に押して島便り　智恵子

二〇二〇年二月一七日

磯泊まりあをさ尽くしの朝餉かな　たか子
ギャロップでパドック巡る春の駒　素　秀
暗闇に架橋のライト冴え返る　宏　虎
春田打ち肥料袋の点々と　こすもす
針山のごと徒長して梅開く　せいじ

二〇二〇年二月一六日

野歩きの余録の幸の蕨摘む　智恵子
古書街のワゴンセールや春うらら　なつき
春潮のさざめくテトラポッドかな　素　秀

二〇二〇年二月一五日

朝東風にハンガーの鳴る古着市　素　秀
光秀の首塚の苔青みけり　ぽんこ
湧水にさ揺れやまざる座禅草　愛　正

毎日句会みのる選・二〇二〇年二月二三日